

中高年女性の夫婦関係と更年期症状との関連

看護学専攻看護学分野

学生氏名：山中祥栄

指導教員：中塚幹也

キーワード：中高年女性 更年期症状 夫婦関係満足度 夫婦間サポート

【緒言】 中高年女性は更年期とともに、「子の巣立ち」、「親の介護」などの家庭状況の変化を経験する。この時期の女性の身体、精神状態を理解する上で、夫婦の関係性の把握は重要であるが、これには種々のライフイベント、家庭状況、夫婦間のサポート、夫婦関係満足度などの多様な因子が関連すると推測される。本研究では中高年の夫婦のパートナーからのサポート、夫婦関係満足度を調査し、妻の健康状態との関連を検討した。

【方法】 対象者は、平成 19 年 2 月～11 月に倉敷成人病検診センター「女性・漢方外来」を受診し同意の得られた 40 歳から 59 歳までの既婚女性 161 名で、無記名の自記式質問紙調査を施行した。妻から夫に渡してもらった質問票は夫自身により厳封し、妻が自身の調査票とともに回収箱に投函する形で回収した。妻と夫に夫婦間サポート、夫婦関係満足度についての質問票を、更に妻にはクッパーマン更年期障害指数表、Cornel Medical Index (CMI)、属性を問う質問調査票を配布した。統計学的解析には、SPSSVer14.0J を使用し、一元配置分散分析を行い、多重比較には Tukey の HSD 法を使用した。また相関は Pearson の積率相関係数により、クロス集計には χ^2 検定を用い調整済み残差により解析を行った。

【結果】 質問配布数は 161 部で回収部数は 112 部 (69.6%) であった。このうち回答に欠損が多かったものを除き、有効回答 78 部 (有効回答率 48.4%) を使用した。対象女性の平均年齢は 52.3 ± 6.5 歳で夫は 52.6 ± 7.3 歳であった。また平均結婚継続年数は 25.4 ± 7.7 年であった。

1. 妻の更年期症状と神経症

クッパーマン更年期指数の平均は 25.6 ± 17.1 であった。また神経症の指標である CMI スコアは、身体症状 21.4 ± 11.6 、精神症状 8.2 ± 6.9 で、CMI 領域では、正常範囲である I 領域 30.7%、II 領域 44.9%、神経症領域である III 領域は 19.2%、神経症と判断される IV 領域も 5.1%に見られた。クッパーマン更年期指数と CMI 身体症状、および、クッパーマン更年期指数と精神症状スコアには正の相関が見られた。

2. 夫婦間サポートと夫婦関係満足度

パートナーから受けていると感じるサポートスコアは、妻は 8.8 ± 2.5 、夫は 8.9 ± 2.2 であり、正の相関 ($r=0.57$) を示した。夫婦関係満足度は、妻は 18.1 ± 4.9 、夫は 18.7 ± 4.3 であり、夫婦間で強い正の相関 ($r=0.73$) を示した。

4. 夫婦間サポートスコア、夫婦関係満足度に関連する背景因子

妻が評価した夫からのサポートスコアは、子どものいない群、家計状況に余裕のある群、ホルモン補充療法群で有意に高値であった。しかし、夫が評価した妻からのサポートスコアに関連する背景因子は見られなかった。

妻の夫婦関係満足度スコアは、子どものいない群、性生活がある群で有意に高く、家計状況に余裕のある群で高値の傾向が見られた。また、閉経後の女性のうちホルモン補充療

法を施行している群では、ホルモン補充療法を施行していない群に比較して有意に高かった。夫の夫婦関係満足度スコアは、子どものいない群で有意に高かった。

5. 夫婦間サポート、夫婦関係満足度別に見た妻の更年期症状、神経症

夫婦間サポートを「夫婦ともに評価不良」、「妻の評価良好、夫の評価不良(夫が妻のサポートに不満足)」、「妻の評価不良、夫の評価良好(妻が夫のサポートに不満足)」、「夫婦ともに評価良好」の4群に分類すると、「妻の評価良好、夫の評価不良(夫が妻のサポートに不満足)」群では、妻の更年期指数、CMI 身体所見スコア、CMI 精神所見スコアは有意に高かった($p < 0.05$)。また、妻が神経症である CMI 領域IV群の者は、「妻の評価良好、夫の評価不良(夫が妻のサポートに不満足)」の群に集中していた($p < 0.001$)。

これに対して、夫婦関係満足度を「夫婦ともに不満足」、「妻は満足、夫は不満足」、「妻は不満足、夫満足」、「夫婦ともに満足」の4群に分類すると、妻の更年期症状、神経症の有無は各群間で違いは見られなかった。

【考察】夫婦関係満足度と背景因子の検討から、子どものいない場合に夫婦ともに夫婦関係満足度は高かった。しかし、子どもとの同居、別居間では有意差は見られず、夫婦のみの生活をしていることではなく、子どもを授からなかったという状態が、夫婦関係満足度の高さに関連している可能性が高い。また、性生活があることは、夫の夫婦関係満足度とは関連していなかったが、妻の夫婦関係満足度の高さに関連しており、中高年に好発する性交障害に関する指導や治療が重要であることが再確認された。閉経女性のうち、ホルモン補充療法を施行した女性では、夫婦関係満足度は高く、ホルモン補充療法は夫婦関係満足度を維持するのに有効である可能性がある。

各自が評価したパートナーからのサポートスコアも夫婦関係満足度スコアも共に夫と妻との間で正の相関を認めたが、サポートスコアの方が夫婦間の相関の程度が弱く、夫の中には、妻からのサポートは得られていないと感じながらも夫婦関係満足度は保たれている者も含まれていたことが影響していると考えられた。

中高年女性の更年期症状に関しては、クッパーマン更年期指数に代表される種々の指標が使用されているが、今回、CMI を使用したところ、更年期症状の強い症例の中には神経症と診断される女性が考慮に値する比率で存在していることが明らかになった。

更年期症状や神経症と、夫婦間サポートや夫婦関係満足度との関連を検討するため検討したところ、妻の更年期症状が少ない夫婦では相互に評価するパートナーからのサポートスコアは高く、妻の更年期症状が強い夫婦では、妻は夫からのサポートに満足している反面、夫は妻からのサポートに満足していない状況が示された。すなわち、妻の更年期症状が強く神経症と判断される場合、夫は妻からのサポートは得られていないと感じながらも夫婦関係満足度は保たれており、アンバランスな状態であった。このような状況は長期的に見ると良好とは考えにくい。妻の更年期症状や神経症に対しては適切な医療的介入や看護支援を行うことが必要である。また、更年期症状のある妻にのみ目を向けるのではなく、新たな視点として夫婦をユニットとして捉え、夫に対する支援も考慮する必要があると考える。

【結論】妻の身体症状、精神症状は、中高年層の夫婦関係に大きく関連していることが示唆された。この年齢層の女性では更年期症状の治療のみに目が向けられがちであるが、神経症の合併例も少なくない。これらに適切に対処するためには、夫婦関係満足度や夫婦間のサポートの状況などの夫婦の背景も含めた枠組みで捉えた上で、医療的介入や看護支援を行うことが必要である。